



(1次元)CCD タッチスキャナ

# FFTA10AP/BP シリーズ

～ 設定事例集 ～

Ver 1.1

日栄インテック株式会社

# 初期化(USB 用)



初期化



開始



日本語キーボード



終了

# デコード多重チェック

## 【内容】

誤読しやすいバーコードラベルであった場合、数回のデコーディングを行うことで**誤読防止**になります。

回数の設定は、16進2桁で表現します。

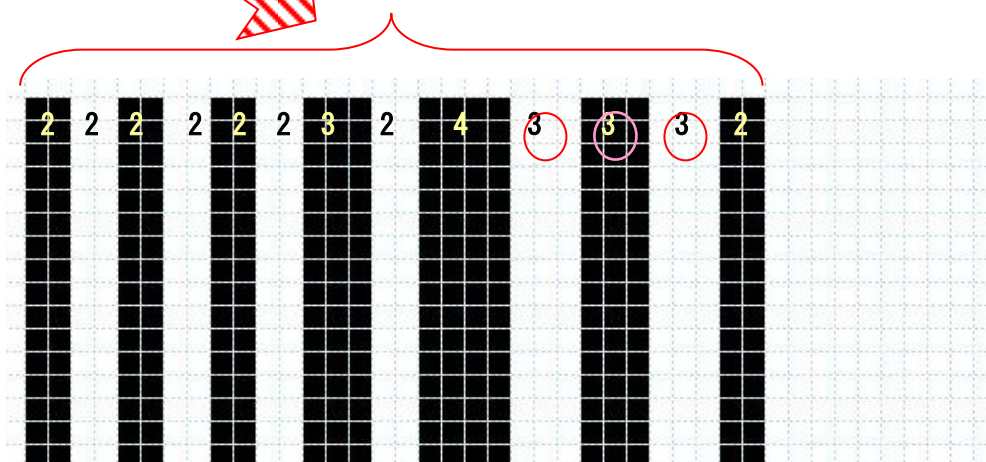
デフォルトは01（1回）です。

## 【活用例】

画像化されたバーコードを引き延ばしたものを印刷したため、**白スペース**と**黒BAR**との対比が合わなくなって、認識しづらいバーコードラベルになってしまった。



ここがあやしい！！  
バーコードの太さが不均一なため、  
誤読しやすい。



## 設定例



開始



チェック回数  
の設定



0  
(16進2桁で2回)



2  
(16進2桁で2回)

デコード回数を2回にする場合の設定

# 二度読み防止機能

## 【内容】

同じバーコードを続けて2回読んでしまうことがないように、一定時間バーコードデータを監視する機能です。

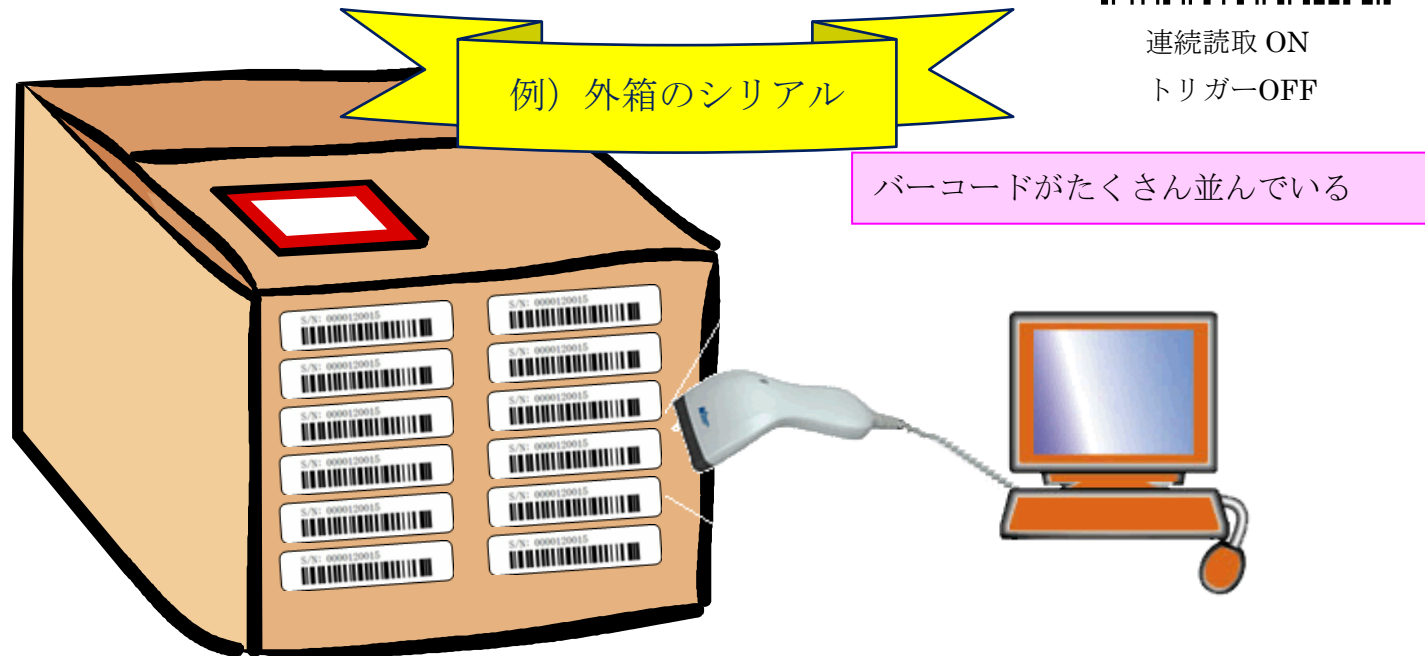
異なるバーコードであれば通常の連続読み取りが出来ます。

時間の間隔の設定は、16進2桁で表現します。

初期状態は1秒(0Ah)です。

## 【活用例】

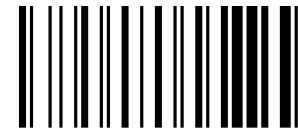
電子機器の同梱でシリアルを外装に貼ってあるなど、たくさん並んだバーコード同士の間隔が小さいため、間違っって同じものを2度読みしてしまう場合。



※この設定はスキャンモードの設定を連続読取 ON/トリガーOFF に設定した時のみ有効とります。



設定開始



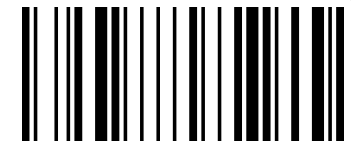
連続読取 ON  
トリガーOFF



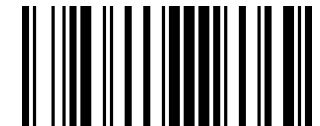
「25.5秒で設定」



設定開始

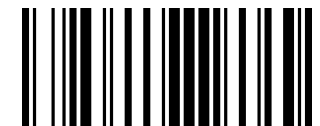


二度読み防止時間設定



F

(16進2桁で255)



F

(16進2桁で255)

# 日本語入力中に半角出力を

## 【内容】

キーボードで日本語文章をかな入力中にバーコードデータを入力しようとする、バーコードデータも全角になってしまいます。リーダーからのバーコードデータのみ半角にする場合、この設定で可能になります。

設定の構造は、

全角/半角OFF → バーコードデータ → 全角/半角ON

となっています。

※) リーダーの設定は英語キーボードにします。

## 【活用例】

EXCELなどで作文中にセルにバーコードデータを入力したい。

バーコードリーダーから  
入力した半角文字

全角

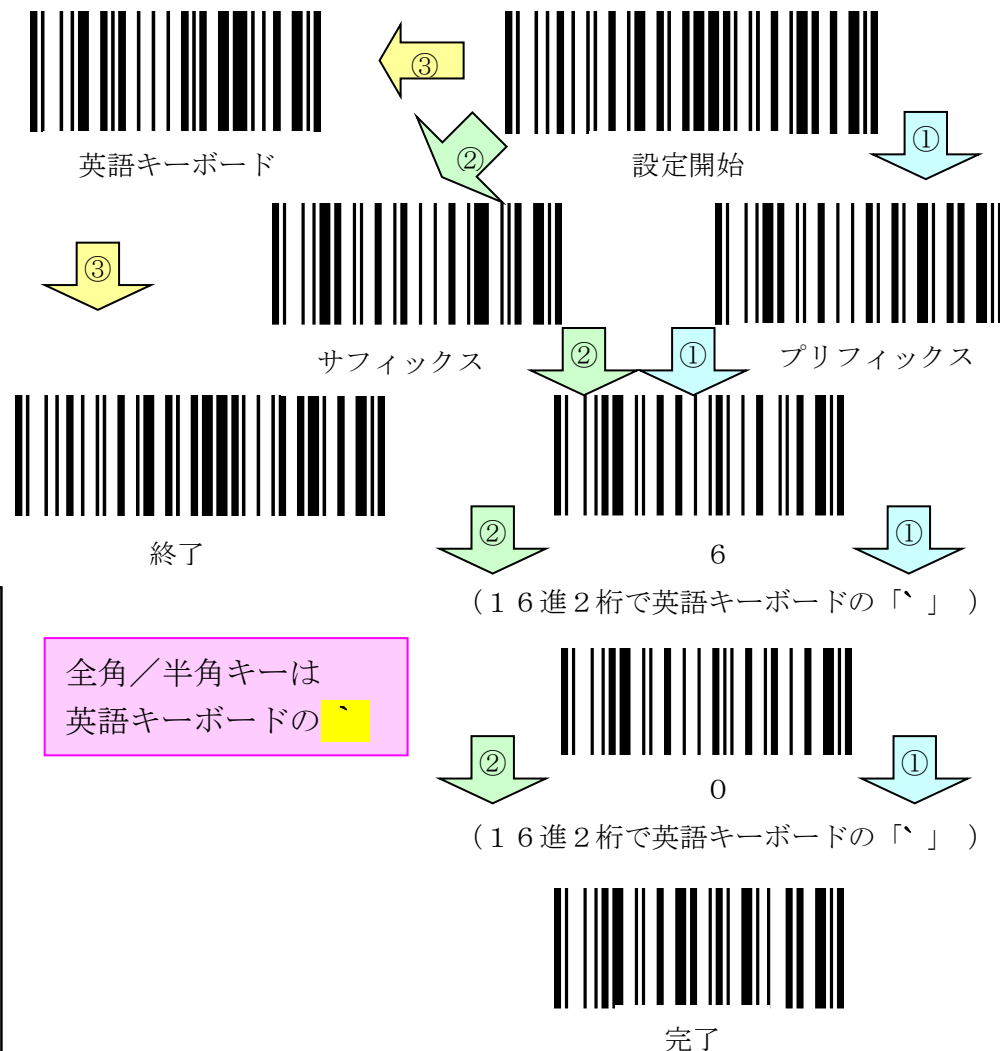
全角

あいうえお 1234567 かきくけこ

さしすせそ 6767676 たちつてと

なにぬねの 9986641

設定例



# ブザー音の長さの設定

## 【内容】

読み取りブザー音の長さを0.01秒(01)から2.55秒(F F)まで変更することができます。

デフォルトは0.05秒(05)です。

## 【活用例】

読み取りブザー音を長くすることで、騒音の中での作業でも読み取りを確認できるようになります。

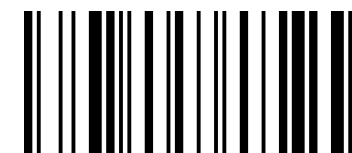
例) 製造ライン



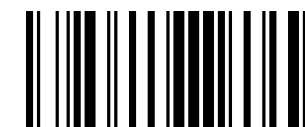
設定例



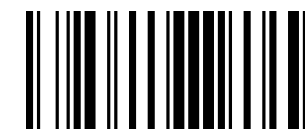
設定開始



ブザー音の長さの設定



F (16進2桁で255)



F (16進2桁で255)

# 起動音なし

## 【内容】

PCを立ち上げた時、リーダーがつながっていれば“ピー”と起動音が鳴ります。

この設定でリーダーに電源が入った時の**起動音をなくす**ことが出来ます。

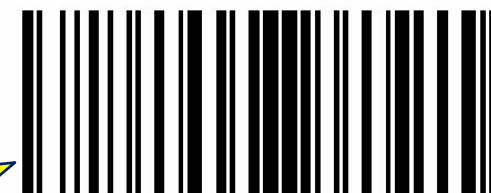
## 【活用例】

病院にて数十台のPCがAM8:00に一斉に起動するため、すべてのリーダーが一斉に鳴り出して患者さんに迷惑をかけた。

この設定でPC起動時が静かになった。

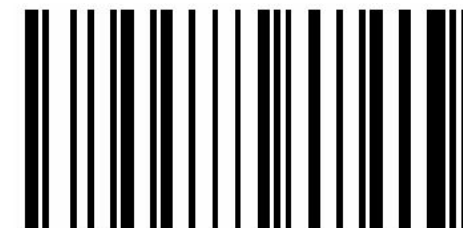
PCが朝8時と同時に一斉に立ち上がる

設定例



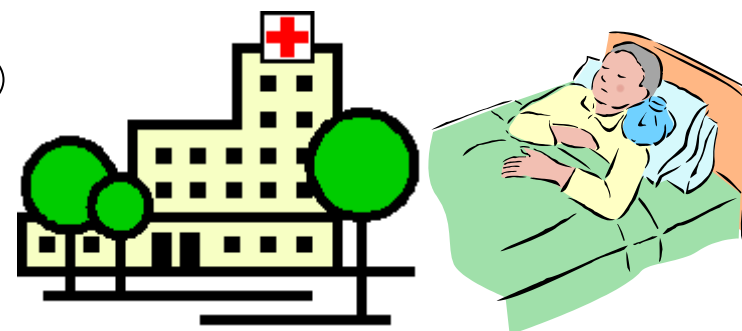
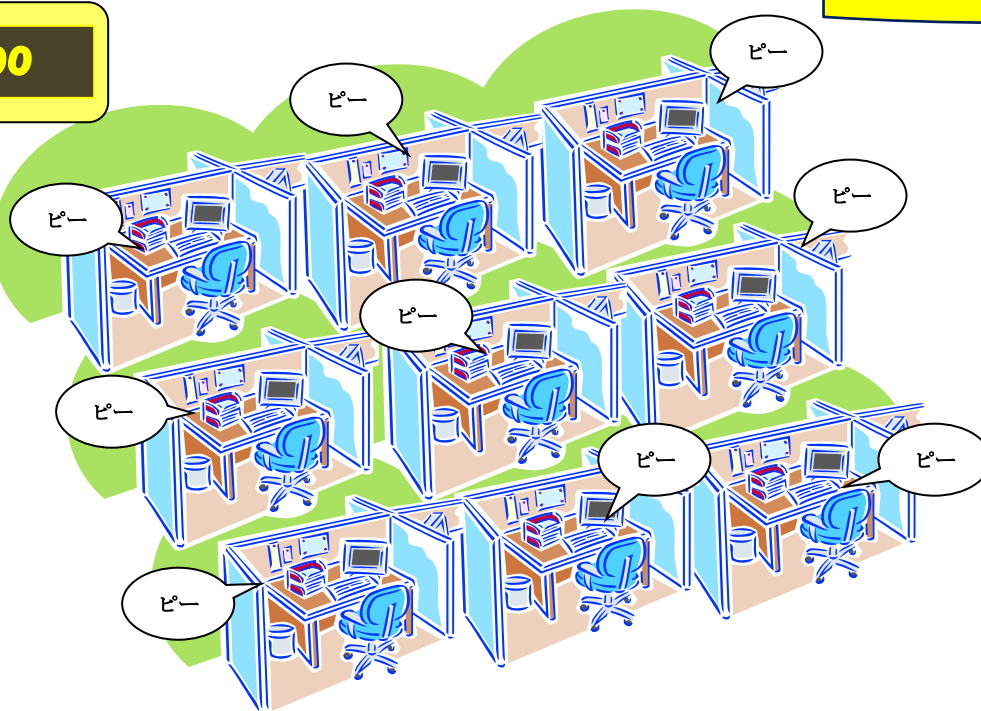
設定開始

例) 病院の始業



起動音ON/OFF

AM 8:00



日栄インテック株式会社

# バーコード種別ごとのコードID

## 【内容】

バーコードの種別ごとに任意で6文字まで  
バーコードデータの前に付加することが出来ます。

## 【活用例】

バーコード種別ごとに項目が異なる使用方法。

「コンタクトレンズの出荷時にロット管理をしたい」

商品型番：JAN13→先頭にJJを付加する

ロット番号：GS1-128→先頭にEEを付加する

宅配便送り状番号：コーダバー→先頭にNNを付加する

例) JAN-13 は先頭に JJ を付加

例) コンタクトレンズの出荷

## <アプリケーションソフト>

入力されるコードの先頭文字を判断して  
自動で所定の項目に入力してくれる  
ロット管理システム

設定例



設定開始



種別 JAN-1



4 (16進2桁でJ)



A (16進2桁でJ)



4 (16進2桁でJ)



A (16進2桁でJ)

バーコードリーダーから  
入力されるデータ

JJ4560151183114

EE08032601

EE08032603

EE08032624

EE08032659

NNa123456789a

人出荷データ収集システム

出荷

出荷・入荷 切り替え

商品  
ロット

No	商品番号	ロット番号
1		

0  
個

CSVファイル出力

プログラム終了

【Space Key】 【BackSpace Key】

商品番号とロット番号に送り状番号を  
ヒモ付けて登録



# AS400 実行キーを右CTRLキーで代用

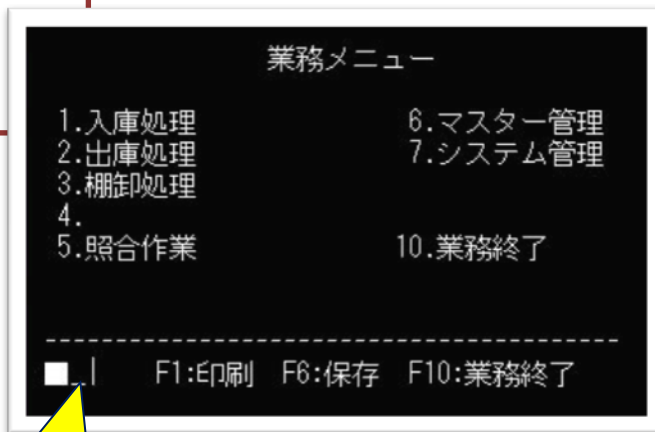
## 【内容】

AS400 (SYSTEM-i) におけるキー操作において、入力値確定のための実行キーを、DOS/Vキーボードでは右Ctrlキーで対応します。

本設定では、バーコード入力後に改行の代わりに右Ctrlキーを付加することで、リーダーでのバーコード入力確定を可能にします。

## 【活用例】

AS400の業務システム。



○×▲@⊕★実行



設定例



設定開始



サフィックスの設定



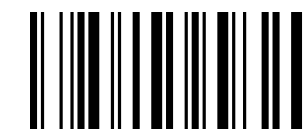
A

(16進2桁で右CTRL)



9

(16進2桁で右CTRL)



終了

# ファンクションキーの入力

## 【内容】

アプリで“F1”などファンクションキーを頻繁に使用する場合、ファンクションキーに相当するバーコードを読ませることで、キーボードから入力したと同じ効果がある設定です。

## 【活用例】

計測器のアプリで“F1キー”が設定完了。

AS400で実行キーの代わりに“右Ctrlキー”を入力して確定する。

例) 計測器



F1キーで  
設定完了

設定例



設定開始



設定OFF



設定ON

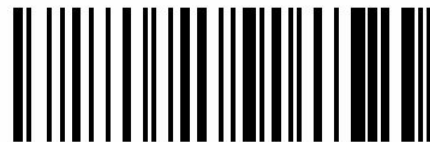


設定終了

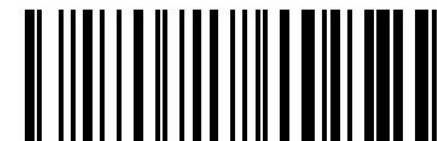
ファンクション設定ON



ファンクションの“F1”



キーボードの“Enter”



キーボードの“右Ctrl”



# UPC-A コードを EAN13/JAN13 に変換

## 【内容】

12桁である UPC-A コードの先頭に 0 を付加し  
EAN13/JAN13 コードの同様の 13 桁に変換します。

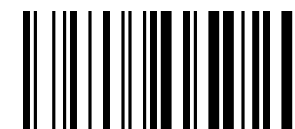
## 【活用例】

UPC-A コードと EAN13/JAN13 コードが混ざっている環境で物品  
コードを 13 桁に統一して管理する。

設定例



設定開始



UPC-A を JAN / EAN-13 に変換する



設定終了

EAN-13(JAN-13)



4 5 6 0 1 5 1 1 8 0 1 2 0

13 桁で最初の桁が 0 以外

UPC-A



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 5

12 桁で最初の桁が 0



商品コード	商品名
0012345678905	スナック菓子
4560151180120	キャンディ

# ケタ数抜き出し

## 【内容】

バーコードの指定桁を抜き出す設定です。  
バーコードデータの中から必要な情報だけ取り出して扱うのに  
便利です。

## 【活用例】

医療関係の GS1-128 ラベルよりロット番号だけ抜き出して使用する  
ケースや、商品コードのみ抜き出して使用するケース。

医薬品の GS1-128  
ロット番号の抜き出し

商品名 : FFTA10APU  
商品コード : 4560151183114  
使用期限 : 2008/04/01  
ロット番号 : ABC123

JANコード



GS1-128



(01) 0 4560151 18311 4 (17) 091225 (10) ABC00123



削除する 2 6 桁 (1 6 進で 1A)

保存する 8 桁 (1 6 進で 0 8)  
(1 0) ロット番号

## <設定方法>

設定開始→データ加工 (削除) →バーコード種別→削除する桁数  
→保存する桁数→FF で残り削除



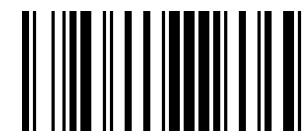
⑥A (1 6 進で 1A)



⑦0 (1 6 進で 0 8)



⑧8 (1 6 進で 0 8)



⑨F (1 6 進で FF)

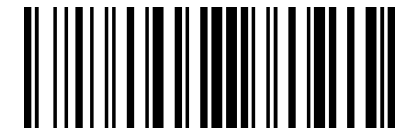


⑩F (1 6 進で FF)



⑪決定

設定例



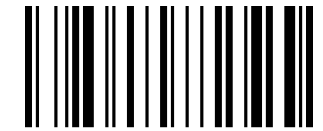
①設定開始



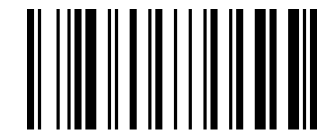
②データ加工・削除



③1 (1 6 進で 1 2)



④2 (1 6 進で 1 2)



⑤1 (1 6 進で 1A)

# スタート/ストップコード

## 【内容】

バーコードのスタート/ストップコードを出力する設定です。  
 スタート/ストップコードの有無を判断してバーコード種別を識別  
 させやすくします。

## 【活用例】

図書館のシステム等、  
 特定の種別のバーコードのみを使用するケース。

コード 39



\* ICHIE \*

両端の\*部分

コーダバー (NW-7)



a 23456789 a

両端の英文字部分 a,b,c,d のいずれか



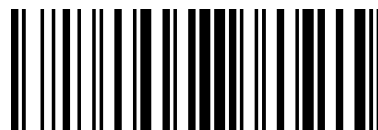
aNICHIEIa

スタート/ストップコード  
 があるので OK

NICHIEI

スタート/ストップコードが  
 ないので NG

設定例①



設定開始

設定例②



設定開始



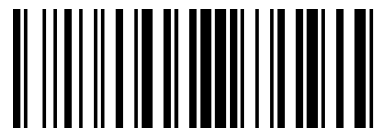
スタート/ストップコードを送信する

Code39



スタート/ストップコードを送信する

コーダバー(NW-7)



設定終了



設定終了

※スタート/ストップコードを付加できるのは、  
 コード 39 とコーダバーのバーコード種別のみとなります。